

東大和市 リアルタイム事務事業評価調書①

【 オンライン英会話マンツーマンレッスン 事業 】

記入日 令和 5 年 10 月 10 日

基 本 情 報 (A・B)

A) 施策、根拠法令等

担当部署	部	教育部	課	教育指導課	係	指導係
基本施策	1	子どもたちの笑顔があふれるまちづくり			事業種別	補助・助成を受けている業務
					継続・新規	新規事業
分野別施策	施策1	-	3	学校教育【重要施策】		事業予算額
	-					27,346 千円
展開方向	☒ 生きる力を育む教育の推進				会計	一般会計
	☐ 快適で充実した学校生活を支える教育環境づくり				款	10 教育費
	☐ 学校と家庭・地域との連携の推進				項	1 教育総務費
根拠法令等 (あれば)	学習指導要領				目	3 教育指導費
					事業番号	12

B) 事業内容・対象

市の魅力向上に寄与する事業	☐	人口減少抑制に寄与する事業	☐
事業概要 (何をやる事業か)	中学校全学年を対象とした英会話授業8回（レッスン5回、スピーキングテスト3回）、家庭学習5回（長期休業中）、不定期希望レッスン5回の最大18回オンライン英会話レッスンの実施により、個に応じたきめ細やかな英語教育の充実を図る。		
事業の対象	市内中学校全生徒		

現年度(令和5年度)に実施中の事業について(C・D・E・F)

C) 目標・目指す状態

※市民意識調査の結果を目標値にはできません（施策評価の目標であるため）。

※「〇〇意識を高める」「理解を深める」等といった成果が測れないものは不可とします。必ず効果が数値化できる目標にしてください。

目標・目指す状態	単位	目標数値
① 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う生徒の割合	%	50 (事前アンケート数値39.6)
② 東京都スピーキングテストの平均点を上回った生徒の人数	人	840
③ 国際基準CEFR A1（英検3級）レベル相当以上を取得している第3学年生徒の割合	%	40 (事前アンケート数値24.4)

D) 前年度と変更した点がありますか？

※事業の実施を経て、見直し、解決すべきだと考えたことを元に変更した点

☐ 有	変更した点→	新事業のため
☒ 無	無の理由→	

E) 見直し状況

※変更（見直し）については、どの程度進んでいますか

--

F) 令和5年度中の進捗状況（予定含む）

※進捗状況はなるべく時系列に沿って記入してください。

①	4月	オンライン英会話に係る接続テストの実施
②	6月	各中学校においてレッスン手配、発注
③	6月	生徒・教職員対象の第1回アンケートの実施
④	6月	各中学校において、レッスン開始
⑤	8月	第1回アンケート結果を委託業者に提供
⑥	10月	Digi田甲子園2023の応募
⑦	1月	生徒・教職員対象の第2回アンケートの実施
⑧	2月	第2回アンケート結果を委託業者に提供

東大和市 リアルタイム事務事業評価調書②

【 オンライン英会話マンツーマンレッスン 事業 】

記入日 令和 6 年 3 月 29 日

実績報告・事業分析

A) リアタイ評価会議での意見・助言等

①	当市の教育の 1 つの特長となる事業になれば良いと思う。また次の事業につながるようになることも期待する。
②	「英語スピーキング大会」といった事業の成果を見れるようなものを検討してはどうか。
③	各中学校において、英検 3 級の取得率を上げるという目標に対して本気になってくれそうならば、市において英検受験料（6,900円）を補助しても良いのではないか。
④	

B) 上記意見を受けて、対応したもの 及び 参考としたもの

英語教育を当市の教育の特徴となる事業となるよう、令和6年度より、第五学年を対象にTGGでの体験学習を導入する。

C) R5年度の実績（事業の実績を示す数値 又は 事業の目標としたものの結果）※市民意識調査の結果は不可とします。

実績の説明	単位	目標値	R5実績値	【参考】R4実績値
① 「CEFR A1レベル相当（英検3級など）以上の第3学年生徒の割合	%	60	21.8	24.4
② 中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）5校の平均グレード	A～F	B	CBCCC	DC C C C
③				

数値として出せる実績が得られなかった（下記にその理由を記載してください）

数値結果がない理由	
R5実績は去年と比べて	☒ 向上した ☐ 例年通り ☐ 低下した ☐ その他
	左記とした理由 又は 分析等（向上・低下した要因等）： <向上した要因> ・オンラインで外国人とマンツーマンで話すことができる環境を整備することで発話量が増えた。 ・生徒の学習意欲が高まった。

D) 分析（令和5年度の実績を踏まえて）

↓該当する1つに○をつけてください↓

①この事業の有効性は 費用対効果（コスパ）、執行体制の状況、手法として最適か 等	○	高かった	普通だった	低かった
①の理由：年間最大18回のオンライン英会話の実施により、英語での会話量を大幅に増加することができた。 また、ESAT-Jの平均点が全校で向上した。				
②この事業に対する市民のニーズ、反応は 市民の反応等を踏まえて回答してください。	○	高かった (良かった)	普通であった	低かった
②の説明：都内や他県の議員等から、本事業についての問い合わせがあった。				
③この事業における市民協働・共創の余地は ※「市民協働」及び「共創」については別紙1をご確認ください。	○	多くの余地がある	余地がある	余地がない
③の説明：市内3社(西武信金、エコス、アルバ)から企業版ふるさと納税として寄付を受けた。				
④この事業が今後市の類似事業と統合・再構築できるか ※市で行っている類似の事業がある場合のみ回答	△	可能である	検討の余地がある	不可能である
④の説明：類似の事業はない。				
⑤近隣市の類似事業と比較して充実している事業か ※近隣市に類似する事業がある場合のみ回答	△	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実
⑤の説明：類似の事業はない。				
⑥東大和市独自の個性を出している事業か	○	市の特長、個性を出せる事業である	他市と同程度 個性はない	
⑥の説明：多摩市初の本格導入であり、現段階においては市独自の個性を出すことができています。				

東大和市 リアルタイム事務事業評価調書③

【 オンライン英会話マンツーマンレッスン 事業 】

記入日 令和 6 年 3 月 29 日

反省・今後の方向性

A) 来年度以降の課題や見直すべき点		※事業の実施を経て、反省・見直しすべきだと思ったことを記入してください。
①	サポートルームを利用している児童・生徒がオンライン英会話に取り組める環境整備	
②	レッスン回数の検討	
③	小学校への導入について検討	
④	外国人とのオンライン交流や英語スピーチなどの英語を話す力を発揮できる教育活動の充実	
⑤		

B) 来年（令和6年度）の取組予定		※事務予定または、改善事項を記入してください。
①	個人予約の方法を整理したマニュアルを作成し、サポートルーム指導員への周知	
②	適正なレッスン・スピーキングテスト回数の検討、アンケートの実施	
③		
④		
⑤		

C) 上記Bの取組にあたって必要な調整・準備事務等		※記入日時時点で必要と考えられる準備事務について記入。
①	マニュアル作成に向けた業者との調整	
②	授業スケジュールの確認、学校教員から聞き取り、学年ごとの要望の把握	
③		
④		
⑤		

事業コスト (6 年 3 月 29 日 時点)

予算科目	款 項 目	10 1 3	事業 番号	12	予算 名称	国際理解教育推進事業費
------	-------------	--------------	----------	----	----------	-------------

R5予算額及び決算額

※会計年度任用職員に係る経費（報酬等）は記入不要です。

単位：円

R5予算額		R5決算額(暫定)		【参考】R4決算額	
事業費合計	27,346,000	事業費合計	20,152,000	事業費合計	0
積算根拠		積算根拠		積算根拠	
12 委託費	27,346,000	12 委託費	20,152,000		
財源内訳		財源内訳		財源内訳	
一般	24,346,000	一般	17,152,000	一般	
国		国		国	
都		都		都	
市債		市債		市債	
その他	3,000,000	その他	3,000,000	その他	